



Glicoセブティーンアイス杯第10回プロアマトーナメント

5月27・28日
名古屋グランドボウル

藤井信人ノンストップで10勝到達 中島瑞葵は社会人初戦で通算4勝目



▲ともにこの大会は初優勝だった藤井(左)と中島

今年10回目を迎えた「Glicoセブティーンアイス杯」は、156レーンを擁する愛知・名古屋グランドボウルを会場に行われたが、男子は昨年の3冠王者・藤井信人が、大会初優勝で、通算タイトルを区切りの10勝に乗せた。女子は、今春高校を卒業した中島瑞葵が、社会人として最初の大会を制し、通算4勝目を挙げた。(主催：(公社)日本プロボウリング協会 特別協賛：江崎グリコ株式会社/(公社)日本ボウリング場協会)

男子・佐藤が初へ快走

予選8G、準決勝6Gの14Gトータルの上位、男女それぞれ3名がTV決勝に進んだ。

予選を1位通過の佐藤貴啓が、準決勝2G目にはパーフェクトを記録するなど、快走を見せていた。しかしその佐藤を、川添奨太が最後の2Gで逆転し、トップシードを決めた。2位で佐藤、そして3位で藤井が決勝に進んだ。その3名は、アベ240を超えるハイスコアの戦いだった。

3位決定戦

前半2つのスプリットを作った佐藤だが、7フレからのターキーで逆転して迎えた10フレ、1投目をともにストライクのあとの佐藤の2投目「勝負に行った結果…」が②④⑧⑩のスプリット。これをナイスカバーで会場を沸かせたが、パンチアウトの藤井が201:200と1ピン差で、佐藤の初優勝への望みを絶った。

優勝決定戦

フォーススタートの川添に、3フレからのフォースで藤井が追いつき、ほぼ互角のまま終盤勝負へ。8フレから互いにターキーのあと、10フレ2投目は川添が「力が入ってしまった」と振り返ったように、⑦ピンを残す9本カウント。藤井がきっちりオールウェーで勝負を決めた。昨年の全日本と同様にトッ



▲20勝から足踏みが続く川添だが「藤井プロが見事でしたね」と潔かった



▲「プロになったときは、自分のボウリングがどれだけ通用するかもわからなかったので、10勝なんてまったく想像していなかった」と藤井だが、貴祿さを感じさせる強さだ

プシードの川添を下し、最近の勢いの差を見せつけた藤井が、通算10勝の大台に乗せた。

◎藤井のコメント

3位決定戦の相手は、一緒に練習したり、すごく可愛がってきた(佐藤)貴啓だったので、正直やり辛さはあった。でも彼が10フレのスプリットを取って会場がものすごく盛り上がったときは、逆に燃えた。優勝決定



▲初優勝にあと1歩届かなかった佐藤だが「自分のゾーンには入れた」

◎男子優勝決定戦

藤井 信人	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	20	40	70	100	128	148	168	198	228	258
川添 奨太	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	30	60	89	109	127	146	166	196	225	245



戦の10フレは、先にストライクを持ってきてプレッシャーをかけようと思ったが、自然に体が動いてくれた。以前は勝ちたい意識が強かったけど、前よりもシンプルに自分のボウリングを出し切るだけ、と思えるようになった。

(優勝ボール: STORMピュア・フィジックス)

女子・霜出2勝目へ好発進

2018年大会で初タイトルを獲得した霜出佳奈が、相性のいい大会で2勝目を狙って予選から快走、トップシードを決めた。決勝へ残る2枠を巡っては大混戦だったが、中島が2番目の座を、そして3番目の座には坂倉にいなが最終Gの258で滑り込んだ。

3位決定戦

久々のTV決勝に緊張感の見える坂倉が前半3つのオープン。断然優位の中島だったが、7フレは4本カウントのスプリット。しかも2本しかカバー



▲優勝の瞬間は、顔を覆ってしばらく動けなかった中島「初めての感覚でした。ゲームのことは本当に何も覚えていません」

できず、坂倉にワンチャンスを与えたが、10フレのパンチアウトで突き放した。

優勝決定戦

3フレからダブルの中島が5フレは④⑥スプリットでオープンとし、男子同様ほぼ横並びのまま9、10フレ勝負へ。9フレは中島が9本スペアに対し、霜出が7本スペアで、中島がカウント差でリード。10フレ1投目はともにストライクのあと、中島の2投目は「カんで引っかき上げてしまった」と7本カウント。ダブルは逆転の霜出だったが「狙ったところより内側に落ちた」投球は、②⑤を残す8本カウント。中島が205:202



▲2勝目が遠い霜出「調子がよかっただけに勝ちかけた。この準優勝を自信に…」



▲出だしのつまずきが痛かった坂倉「悔しいけど、またあの場所に戻りたいと思った」

と3ピン差で制して4勝目を挙げた。

◎中島のコメント

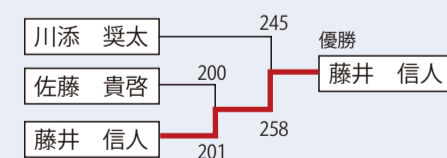
10フレの2投目に切れた時点では、負けたと思った。だからなのか、最後の1投を投げ終えて体が震えました。こんな感覚は初めての経験。大会をとおしては、自分でいうのもなんですが、ゲームの進め方がうまくできた。またボールチェンジにしても、今までは飛ばなくなってから替えていたけど、このままだと⑩ピンが飛ばなくなりそうとか、ボールの動きを見て先先に判断できた。そういう意味では成長を感じられた試合でした。

(優勝ボール: アクキュライン・ツアープレミアム インテル)

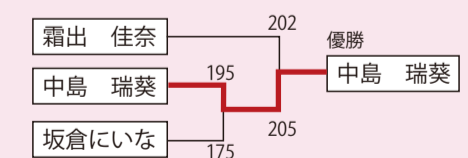


▲ベストアマの榎原真人選手(半田グランドボウル)と岩元美咲希選手(名古屋グランドボウル)

●男子決勝ステップラダー



●女子決勝ステップラダー



●女子優勝決定戦

中島 瑞葵	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	20	40	68	87	96	116	145	165	185	205
霜出 佳奈	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	20	40	60	79	96	116	143	163	183	202